

EU Indicators

欧州経済指標コメント：4月ドイツ I f o 企業景況感

発表日：2018年4月24日(火)

～5ヶ月連続でマインドが慎重化～

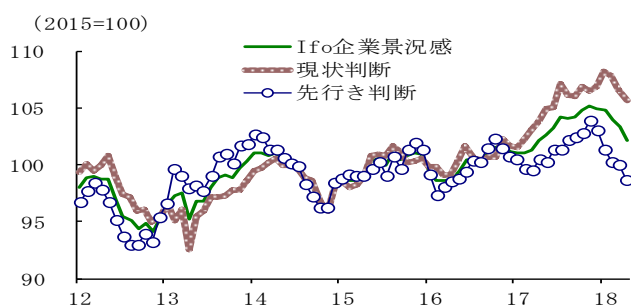
第一生命経済研究所 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理

03-5221-4527

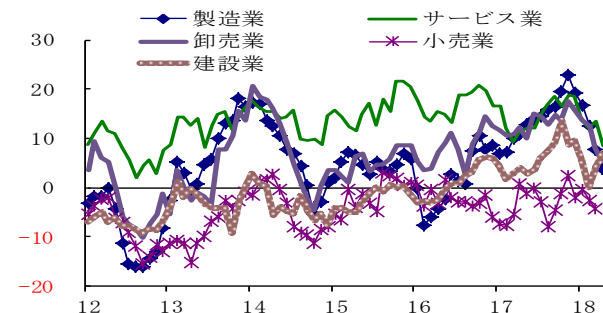
- 4月のドイツの I f o 企業景況感（2015年＝100の指数）は前月から1.2ポイント低下。今回から基準年が変更され、これまで全体計数とは別に発表されていたサービス業が指数の構成に加わった。新規系列が入手可能な2005年以来で最高水準を記録した昨年11月をピークに5ヶ月連続で低下。内訳は現状判断が前月差▲0.9ポイントで3ヶ月連続低下、先行き判断が同▲1.3ポイントで5ヶ月連続低下。
- ヘッドラインの計数が3ヶ月以上連続で低下したのは、2005年以降で6回目。うち4回は同時期かその後しばらくして実質GDP成長率がマイナスに転落、1回ではほぼゼロ成長に減速した。この間の指数の累計落ち幅は今回が▲3.1ポイント、景気後退に陥った4回の平均が▲7.9ポイント、景気後退に陥らなかった2回の平均が▲3.6ポイント。
- 業種別の先行き業況判断（ゼロが分岐点）は、小売業（前月：▲4.4→今月：▲4.2）が5ヶ月連続で悪化超、製造業（+7.8→+3.8）、サービス業（+13.4→+8.5）、卸売業（+7.9→+5.2）で改善幅が縮小の一方、建設業（+4.1→+7.0）で改善幅が拡大した。
- 過度な楽観論の後退や貿易戦争への警戒から、企業景況感到急ブレーキ。天候不順の影響も一巡し、製造業以外の先行き判断も鈍化傾向が鮮明で、幅広い業種でマインドが慎重化。昨日発表されたドイツのPMIと異なり、I f o 計数は先行き・現況判断ともに4月に一段と低下し、落ち込みに歯止めが掛かっていない。ただ、指数の水準と落ち込みの程度は、まだ景気後退を示唆するものではない。

■ドイツ：I f o 企業景況感



出所：I f o

■ドイツ：業種別の先行きの業況判断



出所：I f o

■ドイツ I f o 企業景況感

	2017				2018				2018											
	2Q	3Q	4Q	1Q	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月					
企業景況感(総合)	102.7	104.2	105.0	104.0	103.2	104.2	104.1	104.2	104.8	105.2	105.0	104.8	104.0	103.3	102.1					
現状指数	104.6	106.4	106.8	107.5	105.1	107.1	106.1	106.0	106.9	106.5	106.9	108.2	107.8	106.6	105.7					
先行き指数	100.7	102.0	103.2	100.6	101.3	101.4	102.2	102.4	102.8	103.9	103.0	101.4	100.3	100.0	98.7					
業況判断	22.2	25.1	26.9	24.7	23.7	25.8	24.9	24.7	26.6	27.6	26.5	27.5	24.5	22.2	19.6					
製造業	26.7	30.6	33.1	30.4	28.2	30.9	30.8	30.2	32.4	34.7	32.2	34.0	30.0	27.3	24.0					
サービス業	26.2	31.2	32.1	30.2	26.2	31.1	31.0	31.4	31.7	31.9	32.6	31.2	29.9	29.4	25.9					
卸売業	22.8	23.7	24.1	23.6	25.2	25.5	22.2	23.5	21.8	25.4	25.0	25.5	24.6	20.8	14.7					
小売業	8.6	4.9	8.0	6.0	10.0	7.9	2.0	4.9	8.7	7.5	7.8	9.2	7.0	1.9	3.3					
建設業	13.1	16.7	18.2	17.0	13.9	15.3	16.8	17.9	19.7	16.7	18.2	17.3	15.5	18.3	19.8					

出所：I f o

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。